

土木工学・建築学委員会 IRDR分科会（第25期・第5回）、
IRDR活動推進小委員会（第25期・第2回）合同会議

議 事 録

1. 日 時 令和3年10月21日(金) 10:00-12:00
2. 会 場 オンライン会議 (zoom)
3. 議 題
 - (1) 前回議事録の確認 (川崎)
 - (2) 日本学術会議関連 (林)
 - 1) 7月29日 日本学術会議 第三部「意思の表出」等意見交換会
 - 2) 8月18日(水)及び19日(木) 第三部夏季部会における活動報告
 - 3) 9月1日 日本学術会議土木工学・建築学委員会報告
 - 4) 9月7日 IRDR分科会活動小委員会実施報告
 - (3) 国際コンポーネント
 - 1) IRDR関係 (林)
 - ・ I-CoE Japan申請
 - ・ SC26
 - 2) GP2022関連 (西川・多々納・山崎・林)
 - 3) その他の活動
 - ・ AI-KBAにおけるOSSに係る研修プログラムの検討(台湾からの依頼)(林)
 - (4) 国内コンポーネント
 - 1) 今後の進め方(林)
 - 2) J-HoP関係
 - ・ ぼうさいこくたい2021(水元)
 - ・ 学術変革領域申請(小池)
 - 3) 提言骨子案(林・田村)
 - (5) その他
4. 出席者 (分科会) 小池俊雄、佐竹健治、風間基樹、川崎昭如、小森大輔、
齊藤大樹、寶馨、多々納裕一、田村圭子、塚原健一、西嶋一欽、林春男、
堀宗朗、宮野道雄、小野裕一、西川智
 (オブザーバー) 池田鉄哉、小浪尊宏、田端憲太郎、廣木謙三、山崎律子

(ともに名簿順、敬称略)

5. 議 事

アクション・アイテム

(1) 前回議事録の確認 (川崎)

・資料 05-01_RDR 分科会 (第4回)_議事録の説明

(2) 日本学術会議関連 (林)

1) 7月29日 日本学術会議 第三部「意思の表出」等意見交換会

・資料 5-02-01_0729 三部意思の表出意見交換会説明資料 IRDR 分科会の説明

2) 8月18日(水)及び19日(木) 第三部夏季部会における 活動報告

・資料 05-02-02_(様式)活動報告 IRDR 分科会の説明

3) 9月1日 日本学術会議土木工学・建築学委員会報告

・資料 05-02-03-01_210901 IRDR 分科会紹介 林の説明

・資料 05-02-03-02_議事録詳細版_土木工学・建築学委員会(第25期・第5回)210902 の説明

・資料 05-02-03-03_議事要旨_土木工学・建築学委員会(第25期・第5回)210902 の説明

4) 9月7日 IRDR 分科会活動小委員会実施報告

・資料 05-02-04-01_議事次第 (IRDR 活動推進小委員会第1回) の説明

・資料 05-02-04-02_委員名簿 (IRDR 活動推進小委員会 R3.3.26 現在) の説明

・資料 05-02-04-03_【参考】委員名簿 (R3.9.30 幹事会決定後) の説明

➤ 天野委員と中尾委員がご異動、新たに村上委員にご加入いただいた。

(3) 国際コンポーネント

1) IRDR 関係 (林)

i) SC26

・資料 05-03-01-01 の説明

・資料 05-03-01-02_Closure Summary on IRDR Action Plan 2018-2020 - as of 12 Oct の説明

・資料 05-03-01-03_Report of IRDR 2021 Conference - as of 13 Oct の説明

・資料 05-03-01-04_Draft - Global Research Agenda on DRR - as of 7 June for IRDR 2021 Conference
の説明

・資料 05-03-01-05_Draft - Appendices of Global Research Agenda on DRR - as of 7 June for IRDR
2021 Conference の説明

ii) ICoE Japan 申請

・資料 05-03-01-06_J-COE Short PPT の説明

・資料 05-03-01-07_Comments for each criteria の説明

・資料 05-03-01-08_Copy of Evaluation Form of ICoE の説明

- 10/19 に開催された SC26 において、これまでの高い実績や国際的研究チームの運営力、資金や人的資源、オフィスの提供など、何れの項目において高評価を得て、承認された。
- I-CoE-Coherence が、ICoE Japan の略称となる。
- IRDR 分科会が設立された 22 期以来、ICoE 化を準備し、25 期に実現できた。これから中味を考える時なので、皆様のご協力をお願いしたい。多様なリクエストに対応できる組織体であり、IRDR に貢献していきたい。

2) GP2022 関連 (西川・多々納・山崎・林)

・資料 05-03-02-01_TS 12 Concept Note Template – Draft の説明

3) その他の活動

i) ISC Science and Technology Major Group のメンバーに西川先生就任 (西川)

・資料 05-03-03-01_20211015mail from Anda FW_ [advisory] SEM AG Meeting notes and actions の説明

・資料 05-03-03-02_Meeting minutes 08 October 202 の説明

- ロビーイングとして重要な場であり、日本側の主張を打ち込む機会なので、西川委員が引受けた。皆様からのご協力をいただきたい。

ii) AI-KBA における OSS に係る研修プログラムの検討 (台湾からの依頼) (林)

・資料 05-03-03-03_AI-KBA Improving Disaster Resilience using OSS-SR Facilitator 211011RR の説明

- ICoE 台湾が以前から開催してきた能力開発プログラムの一環。ICoE 日本との共催で、4 日間 (2-3 時間/日) のセッションを企画中。IRDR の幹事および第 3 部委員の小池委員の登壇を中心に、Program 案を作成。4 日目は若手の議論の場を作る。

(4) 国内コンポーネント

1) 今後の進め方 (林)

・資料05-04-01_第25期IRDR分科会活動案210825の説明

2) J-HoP 関係

i) 学術変革領域申請 (小池)

・資料05-04-02-01_R4 学術変革領域 (レジリエンスの型) (3) の説明

➤ JHoP の若手を中心に、申請書を作成。申請書作成において、NIED からご支援を頂いた。

ii) ぼうさいこくたい 2021 (水元)

・資料05-04-02-02_01_20211106 ぼうさいこくたい 2021 セッション共催提案書_0929 の説明

➤ 当分科会が主催。NIED の支援のもと、JHoP の若手を中心に企画。

3) 提言骨子案 (林・田村)

・資料5-04-03-01_1 世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方の説明

- 何が起こるか、どういう社会まで作れるか、中途半端だとどうなるかを、もう少し分かりやすく説明できるといい。
- 小規模・中規模のもので **Build Back Better** をやっていくと、大規模なものにも対応できるようになる。
- 不確定性が大きいので、不測の事態をシナリオに入れる。想定されるシナリオと最悪の事態の両方があるといい。
- 戦争、軍事クーデターなど、人間の安全保障に通じた話であるが、どこまで広げるのか。災害の範疇に留めるのか。
 - ハザードとしては、いわゆる災害の範囲 (限定する)。社会の影響という意味では、災害に問わずに、人間の安全保障に被る部分もある。
- 国難級災害ということで、トランスフォーメーションと一緒に、考えていけるといい。
- 内閣府などの組織に対して文書として残ると良い。
- ポルトガルは、アグレッシブな航海時代から農業社会に変革したことで、豊かな暮らしへ移行したとも言える。災害等のタイミングで、どうトランスフォーメーションしたか。(国力は下がったとしても) 必ずしもウェル・ビーイングは下がったとは言えない。評価軸によって、変わる。
- 巨大災害に備える。一般住民は無力で国に頼らざるをえない。コロナと同じ。巨大災害が起きた際、緊急事態宣言を出すことになるが、もう一つ下のレベルも考えておく必要がある。5年後、10年後、20年後に起きたらどうするかを考えておく。そのためには、防

災の主流化が肝要であり、国防、安全保障、健康・医療、社会保障と同じく、防災も位置つけておく。

- ハザードの推測に不確定性がある。不確定性を示して議論する必要がある。過去の事例を示すとインパクトがあるが、学術会議として歴史学の人達とどう解釈するかについて議論することが必要。
- 日本はどこでも自然災害が発生し得るので、遷都よりもリモートの時代は分散がいいかもしれない。自律分散協調。大都市一極集中は避けるべき。
- 八ッ場ダムの問題の時に、民主党政権の中で建設が再開した。もし1ヶ月建設再開が遅れていたら、2019年台風19号の際、首都圏は危なかったかもしれない。本提言は第25期で確実に出す必要がある。トランスフォーメーションする先が、レジリエンス。
 - 最期のトランスフォーメーションをどうすべきかを詰める必要がある。現行組織だとなぜトランスフォーメーションできないのか。それが決め打ちというレベルなのか。これなら行けそう、というものを出さないと、国難級災害に間に合わないのでは。なぜ、出来ないのかを踏み込む必要がある。
- 議論を継続させていただきたい。

(5) その他